

青森県県有施設長寿命化指針について

建物を長生きさせるコツ

阿保正樹
(青森県県土整備部)

1. はじめに

「『長寿命化指針』のことで電話がはいてますけど……」

そう言えば去年の今頃は「指針」策定のために財産管理課と頻繁にやりとりしてたっけ、などと思いつつ受話器をとるとその「指針」に関する寄稿依頼でした。ここ数ヶ月、保全や建築材料等から少し遠ざかっていることもあり、「指針」と聞いて一瞬ドキッとしたものでした。恥ずかしながらこれまで本誌を読んだことがなく、どのような雑誌かも知らなかったので、「見本」の送付をお願いしてその中身を見ると、今度はそれがとても立派なのでさらにビックリ。

「何と、まともな技術雑誌ではないか。内容も相当固いようだし… まあ、コンクリートだからしょうがないか…」

青森県は、自然が豊かなリンゴと米で知られる農業県ですが、海の幸山の幸もとても豊富で、林業では青森ヒバが全国的に有名、住宅はコンクリートより木造が主流で、八戸港はイカの水揚げ高日本一と、割と何でも軟らかいのが得意です。

電話で担当の石田氏に問い合わせると、「軟らかいのも大丈夫ですよ」との返事もらったので、「ここはひとつ青森県のPRのために」と引き受けることにしたのでした。

2. 本指針策定の背景

(1) 施設の状況

他の自治体と同様に、青森県が保有する施設の数と面積も相当な量である。図1に示すとおり、2012年

には、これまでの建て替え時期の目安とされた築後30年以上の施設が全体の過半となる。建て替えに要する費用が膨れあがるばかりか（もっともそんなお金はもうないのですが）、光熱水費や修繕費等の維持管理費も増加し、さらに国の交付金削減により財政が悪化する中で厳しい対応を迫られていた。

そこで県の財政改革プランでは、2004年からの5年間「大規模施設については、原則として新規着工を見合わせる」との取組方針が示された。また同時に施設の統廃合を進めるとともに、余剰となる施設は処分を検討することとした。

一方、住民に行政サービスを提供するための施設は、既存施設の「長寿命化」と「用途転用」によって供給することとした。1990年代のバブル崩壊後、東北各県が軒並み建築工事を減少させる中で、青森県は当時全国トップクラスの県単独公共投資によりハコモノ政策を継続してきた。県立図書館、自治研修所、美術館等の大規模施設をつぎつぎと建設してきたが、この時点で初めて「新築によらない施設供給」へと舵を切った（ついにお金がなくなったのです）。

(2) 財政状況

歳入は減少していても、2010年12月に開業予定の整備新幹線八戸・青森間の建設費負担金は、営業開始と同時に急激かつ大幅に増加する。また新幹線と並行して走る在来線の東北本線は、JRから経営分離され、青森県等が出資する第3セクター「青い森鉄道」に移管される。それに必要となる多額の運営管理費も県には大きな負担である（新幹線の工事は着々と進み、青い森鉄道の新社屋も青森駅そばに完成間近です）。